

紀行人

Ki
Kou
Jinその時代を生きた
証人が語る
武蔵野の歴史

三鷹駅北口の変遷とともに

南口しかなかった
戦前の三鷹駅。
踏み切りを渡って北側へ

私が先代の興した「田辺フルーツ」の跡を継いだのは30歳、昭和56（1981）年のことです。まだ中央線は高架になっておらず、ロータリーに植えられた木は小さくて、北村西望作の「世界連邦平和像」が真っ先に目に入ってきました。私自身は小金井市の出身ですが、戦前、戦後の三鷹駅北口のこと、先代から話をよく聞かされました。

戦前、昭和16（1941）年に三鷹駅武蔵野口が開設されるまで、三



昭和55（1980）年の三鷹駅北口の様子。一番右側の建物が田辺フルーツ。

中央大通りのイチヨウ並木が美しい三鷹駅北口。この駅前で、戦後から約70年にわたり開いていた上質なフルーツ専門店「田辺フルーツ」。その2代目が田辺文彦さんです。三鷹駅北口商店会の会長も務められ、まちの移り変わりを見つけてきた田辺さんに、昔の駅前の様子を語ってもらいました。



田辺文彦さん（68歳）

昭和26年小金井市生まれ。大学卒業後、地方公務員、会社員を経て昭和53年「田辺フルーツ」へ。昭和56年に2代目として店を引き継ぐ。現在三鷹駅北口商店会相談役、武蔵野市商店会連合会副会長、武蔵野市中央地区商店連合会相談役。

鷹駅には南口しなくて、南口で降りて東側の踏み切りを渡って北側へ来たそうです。踏み切りから真っすぐ進むと八丁通り。昔はこちらがメインストリートで魚屋、肉屋、八百屋など商店が軒を連ね、歓楽街として発展し、昭和40（1965）年代ごろまで大変な賑わいでした。今北口駅前にパチンコ店がありますが、ここは中島飛行機に勤務する人のためのバスの発着所。駅のそばまで畑が広がり、現在の「かたらいの道」は農道でした。

住み込みの店員が 常時8〜10人いた 昭和30〜40年代

先代が駅前前に店を出したのは昭和22（1947）年ごろです。「三鷹駅に北口ができるので商売になるだろう」とのもくろみは外れ、まったくお客さんが来ない。窮して夜逃げしようと思ったのを親類に「1日は（今仕事をしている）8時間じゃなく24時間ある。もう少し頑張りなさい、我慢しなさい。」と止められ、唯一のお客さんであるグリーンパークの駐留軍の外国人のお客さんを相手に商売をしていたと聞いています。それが変わっていったのは昭和30（1955）年代、高度経済成長期に入ってから。東京オリンピックの頃になると住み込みで働く女性が常時8〜10人くらいいたそうです。西多摩郡地域、千葉県成田市地域出身の子が多く、中学校・高校を卒業してやってくるわけです。当時の住み込みというのは、お店は親代わりとなってお嫁に行くまで面倒を見たもので、生け花や料理、裁縫、茶道などを習わせたり、食事の支度や掃除の仕方を教えたり。つまりお店で働くこと

は単にお金を稼ぐだけではなく、花嫁修業のような意味もあったんですね。平成になってからですね、通いのパートアルバイト制になったのは。

玉川上水緑道に ホタルを放し、 かつての玉川上水の 風物を復活させたい

昭和50（1975）年代の玉川上水には、夏になるとホタルがたくさん飛んでいました。また駅前、現在武蔵野タワーズのツインタワーマンションが建っている場所は梅林で、花の季節には駅の辺りまで香りが漂ってきたものです。このことを懐かしく話すお客さんが、最近までいらっしやいました。

一方、この頃から松屋フーズ、魚

民などの居酒屋チェーンを経営する

モンテローザなどの企業が本社機能を三鷹駅北口に置くようになり、戦前からあった横河電機も含めて企業城下町の様相を帯びていきます。また中央大通りをメインストリートとして、警察署、裁判所、武蔵野市役所への玄関口、あるいは練馬や田無行きのパスが行き交う南北ラインの帰着点、といったイメージが三鷹駅北口の特徴として定着していったのもこのころからではないでしょうか。

徐々にまちが変わっていく中で、私たちのような昔から商売している者が中心となって、桜まつりやタワーズマルシェ、ふれあい祭りなど、商店街としてさまざまなイベントを行ってきました。それは一つには地元の人を大切にするということと、もう一つは新しく転入してきた人たちとの交流を図るためです。

実はツインタワーができた時には、地元の商店街に所属してほしいとお願いに行っただけです。古くからこのまちに住む人も、新しく住民になった人も、コミュニティの一員として顔見知りの関係でありたい。まちが発展しても、人と人とのつながりは変わらないものであってほしい

いと思います。

5月、駅前に立ってみると、ロータリーの木が立派になって緑がまぶしいです。クヌギ、ナラ、イチヨウ……どれも武蔵野の自然を代表する樹木です。また玉川上水緑道の辺りはきれいになりましたが、木陰を歩くと今でも昭和に戻ったような気がします。商店会長の頃には、今では冬の風物詩となっている駅前イルミネーションなどを実現させてきましたが、退任した今もこの緑道にホタルを放したいという夢があります。ホタルを見たことのない平成、そして令和生まれの子どもたちにあの幻想的な光を見せてあげたい。いつか実現させたいですね。



昭和41（1966）年の玉川上水新橋付近。

PICK UP SPOT

田辺さんが、市内のお気に入りスポットを紹介してくれました。



三鷹駅北口玉川上水緑道

「毎日通る道なのですが、ふとした瞬間にとってもノスタルジックな気分になれる場所です」（中町1丁目付近）